

石巻市立門脇小学校

2014年 12月 19日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

(1)『子どもの命は守られたのか』数見隆生 編著(2011)かもがわ出版

【場所】

海から約700m、旧北上川から約500m離れた位置にある。

住所:宮城県石巻市門脇町4丁目2-11

※現在は別の場所で仮設校舎にて再開。

【東日本大震災による被害】

津波により校舎が浸水。津波に伴う火災で校舎が大きな被害を受ける。

※校舎は震災遺構として保存されることが決まった。



赤い範囲:石巻市

石巻市

緑の範囲:門脇小学校

【震災当日の様子】

地震が起こった時、授業はすでに終了しており、6年生は卒業間近のため、最後の校舎掃除をしていた。他学年の中には帰宅した児童もあり、校庭での一次避難の時に一部の児童は保護者に引き渡された。こうした学校を離れた児童の内7名が亡くなった。

校庭に避難し、当日は小雪の舞う寒い日でもあったことから、体育館に避難するかどうかを協議していたところに大津波警報が出たとの情報が確認され、校長の判断で即座に近隣の高台にある日和山公園へ避難することになった。日和山公園は学校のすぐ裏手にあり、階段で上がれるようになっていて、地域住民も利用しているところである。通常の避難訓練でも避難場所としていた。避難の途中でドーンという津波の音が聞こえたという。

校舎は4階建てで、場合によっては日和山に逃げれば良いということで、市は学校を地域の指定避難所にしてた。そのために、児童と教職員が避難した後に地域住民が次々に学校に避難してきた。地域住民の対応のために教頭を始めとする教職員4名が学校に残り、教室の1階が丸々浸水する中、3階の窓から裏山にハシゴをかけて住民の脱出を援助した。

また、校舎と裏手の日和山の一角が津波の吹き溜まりの場となり、流されてきたたくさんの車とがれきが密集して漂い、その車のガソリンに火がつき3日間余りずっと燃え続け、一面火の海となった。

学校管理下の児童と教職員は全員無事であった。(1)



火災のあった校舎(2012/12/7撮影)



南から見た学校と日和山(2014/11/2撮影)

※校舎の後ろに見える建物は日和山にある女子高の校舎である。

【調査して言えること】

学校の標高は約5mで、海から約700m、旧北上川から約500mの場所にあるため、地震の際は津波を警戒した避難の必要な学校である。

学校の裏側は山(日和山)になっており、学校横の通路から道なりに600mほど行くと日和山公園に行くことができる。日和山公園は標高40m以上あり、安全な避難所である。

学校の近くに避難できる山があり、学校外への避難がしやすい学校である。



日和山への通路に繋がっている通行口(2014/11/2撮影)

※学校の敷地から直接避難できる。



日和山に登れる通路(2014/11/2撮影)